2019 年 5 月 30 日

ＨＲＩ　株式会社百五総合研究所

＜調査研究報告＞　令和元年　三重県の観光に期待
～改元、高速道開通・新拠点整備でポテンシャル向上～

コンサルティング事業部
調査グループ　谷ノ上

はじめに

今年のゴールデンウィーク（以下、GW）期間中の三重県の観光入込客数は前年を大きく上回った。改元に伴い、皇室とゆかりの深い伊勢神宮への参拝者数が増加し、世界遺産登録15 周年を迎えた熊野古道周辺地域の施設への入込客数も増加した。改元の効果は今後しばらく継続するとみられ、さらに、３月に開通した新名神高速道路による渋滞緩和や、県南部で来年新たにオープンが予定されている観光宿泊施設の整備など、令和時代の三重県の観光に期待がかかる。

１．令和元年ＧＷの観光客４割増加

平成から令和へと元号をまたぎ、多くの人が 10 連休となった今年のGW。改元を祝う催しが各地で行われ、観光地は多くの人で賑わった。

三重県が今月 11 日に発表した、GW期間中（平成 31 年 4 月 27 日～令和元年 5 月 6 日、10 日間）の県内主要観光施設（21 施設）への観光入込客数（延数）は、約 300 万人となり、前年のGW期間中（平成 30 年 4 月 28 日～5 月 6 日、9 日間）の 142.4%となった。1 日あたりの入込客数でみても 128.2%となり、調査地点となった観光施設等のほとんどで前年を大きく上回っており、県内全域で賑わったことがうかがえる。

図表１　三重県のＧＷ期間中の主要施設の観光入込客数（延数）

調査地点	平成31年（10日間、人）	平成30年（9日間、人）	対前年比	１日あたり対前年比
合計（21施設）	3,002,858	2,108,418	142.4%	128.2%
ナガシマリゾート	1,000,000	900,000	111.1%	100.0%
鈴鹿サーキット	131,550	106,450	123.6%	111.2%
伊勢神宮（内宮＋外宮）	882,152	387,725	227.5%	204.8%
鳥羽水族館	66,972	46,936	142.7%	128.4%
志摩スペイン村	121,000	81,000	149.4%	134.4%
伊賀流忍者博物館	22,399	15,700	142.7%	128.4%
県立熊野古道センター	16,134	13,085	123.3%	111.0%
道の駅「熊野・花の窟」（お綱茶屋）	23,371	12,000	194.8%	175.3%
鬼ヶ城センター	25,967	18,549	140.0%	126.0%

※合計（21 施設）は上記施設の他、御在所ロープウェイ、御殿場海岸、松阪農業公園ベルファーム、五桂池ふるさと村、奥伊勢フォレストピア、おかげ横丁、ともいきの国伊勢忍者キングダム、ミキモト真珠島、伊賀上野城、伊賀の里モクモク手づくりファーム、赤目四十八滝、道の駅「紀伊長島マンボウ」の合計。

資料：三重県観光局観光政策課資料より

２．伊勢神宮の参拝者数は２倍に

ＧW期間中、とくに「伊勢神宮」（正式名称は神宮）の参拝者数は約 88 万人となり、前年の２倍を超えた。とりわけ令和最初の日となった５月１日は、前年同日の 5.1 倍、前日４月 30 日の 1.9 倍となった。

皇室とゆかりが深く、皇室の御祖先とされる天照大御神やその御饌都神である豊受大御神等をお祀りする伊勢神宮は、上皇陛下の天皇在位中最後の地方訪問の地となるなど、御代替わりに伴い全国的に注目度が高まった。旅行会社や鉄道、バスなどの交通機関も、改元を記念した参拝ツアーや記念切符を発売するなどしており、改元を祝ったり、御朱印を求める参拝者が増えたとみられる。クラブツーリズム㈱（東京）では、改元・新元号ツアーや御朱印めぐりツアーなどを多数企画･販売しているが、とくに伊勢神宮を参拝するツアーは好調で、ＧW期間中、首都圏出発のツアー参加人数は例年の 160%以上になったという。

図表２　伊勢神宮参拝者数（改元前後の変化／平成・令和／日別）

		参拝者数（人）	
平成	30年 4月30日	40,922	昨年
	30年 5月1日	33,904	
	31年 4月30日	93,703	今年
令和	元年 5月1日	174,019	

※内宮＋外宮
資料：伊勢市（ゴールデンウィーク期間中の神宮参拝者数）より

３．熊野古道世界遺産登録 15 周年

また今年は、熊野古道が、平成 16（2004）年７月に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されて 15 年となる。そのＰＲ効果と改元が重なり、熊野古道の街道沿いにある「道の駅「熊野・花の窟」（お綱茶屋)」は対前年比 194.8%となったほか、「鬼ヶ城センター」や「県立熊野古道センター」など、熊野古道周辺の施設で大きく増加した。

４．改元の効果

三重県において、改元の効果はＧWにとどまらず、今後しばらく継続するとみられる。伊勢神宮の過去の参拝者数の推移をみると、大正、昭和、平成と新元号になった年やその翌年は、前年を大きく上回っている。江戸時代には、人々が一生に一度は参拝したいと願った伊勢神宮。日本人として新しい時代の幕開けにお伊勢参りをという心理が働くのかもしれない。クラブツーリズム㈱でも、年内しばらくは改元効果が続くとみて、来年初めまで伊勢神宮に立ち寄る改元関連ツアーを販売している。

また、熊野古道世界遺産登録 15 周年を記念して、「熊野古道伊勢路」の沿線地域では、ウォーキングやトレッキング、まつりなど様々な記念事業が予定されている。熊野古道は古くより熊野三山を詣でるための参詣道であり、「熊野古道伊勢路」は伊勢神宮を起点に伊勢から東回りする道である。「熊野詣」は江戸時代に伊勢参りとともに大流行した歴史がある。伊勢神宮と熊野古道をセットにしたツアーもあるなど、今年はとくに改元と記念事業の相乗効果で注目度が高まることが期待される。

図表３　伊勢神宮参拝者数（改元前後の変化／平成以前／年別）

		参拝者数（人）	改元前年との差
明治	44年	1,438,575	－
大正	元年	1,614,781	176,206
	14年	2,779,433	－
昭和	元年	2,914,130	134,697
	63年	6,234,142	－
平成	元年	6,255,656	21,514
	2年	6,761,233	505,577

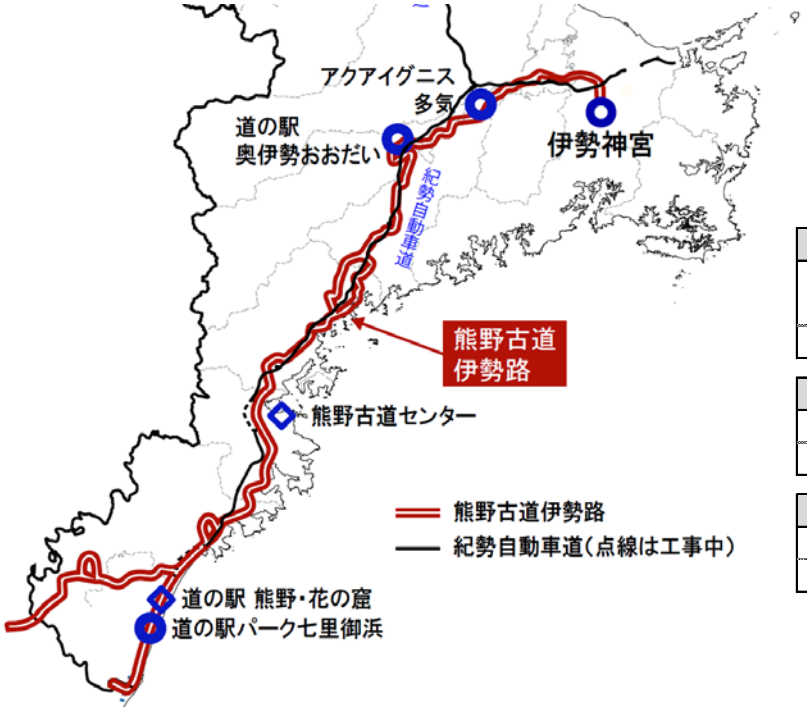
※内宮＋外宮。平成 2 年の差は、平成元年との差。
資料：伊勢市「平成 30 年伊勢市観光統計」より筆者作成

５．県南部で進む観光宿泊施設等の整備

さらに令和２年は、これまで伊勢志摩を除き観光宿泊施設が手薄であった県南部地域で、注目度の高い施設が複数整備される予定である。同年 2 月は、多気町に「アクアイグニス多気」が開業する。115ha の広大な敷地に商業、宿泊、温浴、産直市場、薬草園・農場等が整備され、滞在型複合施設として一大リゾートエリアとなる。秋には、大台町と御浜町に外資系のマリオットホテルと積水ハウスが進めるロードサイド型ホテルが、「道の駅」に隣接して開業する。「道の駅」をハブとして、外国人観光客もターゲットに、車やバイク、自転車などで「地域の魅力を渡り歩く旅」を提案・提供する地方創生プロジェクト「Trip Base 道の駅プロジェクト」として展開される。

大台町には秘境 大杉谷渓谷、御浜町には七里御浜などの名所があるほか、これらの地域には熊野古道伊勢路も通る。日本の原風景を求める国内外からの観光客の新たな受け皿となり、周辺観光の拠点となることが期待される。

図表４　熊野古道伊勢路と周辺の主要観光施設（開業予定含む）



アクアイグニス多気
伊勢自動車道 勢和多気JCT付近に整備。 スマートICを整備し伊勢道と直結。
開業予定：令和2年2月

Trip Base 道の駅プロジェクト（大台町）
「道の駅 奥伊勢おおだい」に隣接
開業予定：令和2年秋以降

Trip Base 道の駅プロジェクト（御浜町）
「道の駅 パーク七里御浜」に隣接
開業予定：令和2年秋以降

資料：各リリース資料より筆者作成

６．新名神の開通、県内観光振興への期待

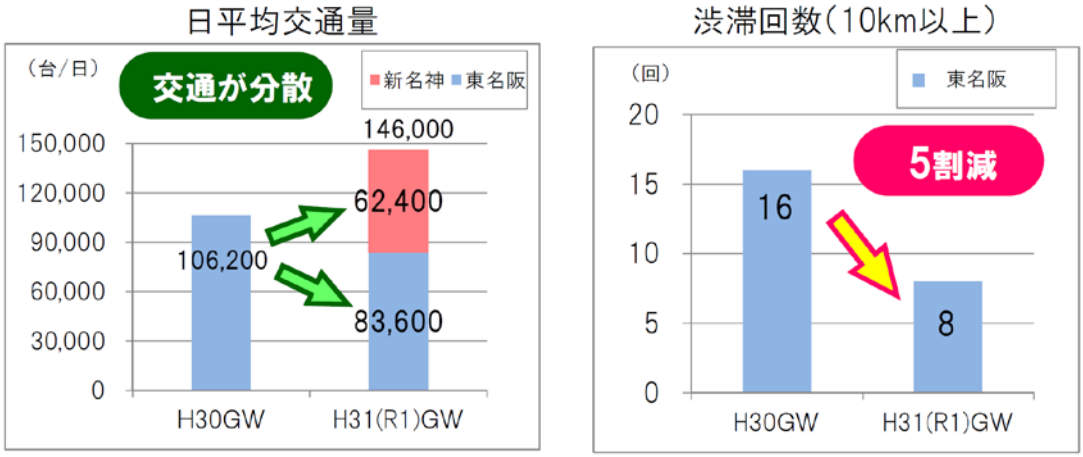
また、今年３月に開通した新名神高速道路（新四日市 JCT～亀山西 JCT、以下、新名神）による効果は、これからの三重県の観光にとって大きな追い風となる。新名神は東名・名神・新東名の高速道路と一体となって、国土軸のダブルネットワークとして三大都市圏を結ぶ大動脈となり、県内においては、県北部を走る東名阪自動車道（以下、東名阪）と並走し、その渋滞緩和に寄与することが期待されている。東名阪の四日市 JCT～亀山 JCT は、上下線とも全国渋滞ワースト上位にランキングされるほど渋滞が激しい区間であった。国土交通省（※1）が昨年 11 月に実施したアンケートでは、東名阪の混雑・渋滞を避けて三重県内での観光・レジャーを控えた経験のある人は、三重県を含む近隣７県で回答者の約３割を占めた。

しかし、新名神の開通１週間後、東名阪の交通量は約３割減少した。GW期間には NEXCO の渋滞予測区間から外れ、交通量は、昨年の東名阪 106,200 台/日に対し、今年は新名神 62,400 台/日、東名阪 83,600 台/日と合計では増加したものの分散し、10km 以上の渋滞回数は半分に、20km 以上の渋滞は昨年６回から１回に減少と劇的な変化がみられた。

図表５　新名神（三重県区間）および周辺主要道路の整備状況

資料：各リリース資料より筆者作成

図表６　新名神開通後のGW期間中の交通量・渋滞発生回数（東名阪）



※新名神（新四日市 JCT～亀山西 JCT）、東名阪（四日市 JCT～亀山 JCT）
※H30GW（2018 年４月 27 日～５月７日、11 日間）、H31(R1)GW（2019 年４月 26 日～５月６日、11 日間）
資料：NEXCO 中日本（2019 年５月７日ニュースリリース）より

三重県の観光地を訪れる観光客の約 7 割は愛知県や大阪府などの県外からで、その約８割は自家用車を利用している。このような現状を踏まえると、新名神の開通と東名阪の混雑・渋滞の緩和は、県内の観光振興につながることが期待される。

とくに「新名神沿線の主要観光地」や「遠方からの集客割合の高い観光地」などにおいては、集客力アップの好機となる。新名神の菰野 IC 周辺には、湯の山温泉や御在所岳があり観光シーズンの渋滞が激しいが、昨年、新名神に先行して「四日市湯の山道路」や「湯の山かもしか大橋」などの周辺道路が整備されたほか、御在所岳ロープウェイの新型ゴンドラ導入や展望レストランの新設、駐車場整備、宿泊施設等ではインバウンド誘客に向けた取り組みなど、官民あげて受入れ環境の整備が行われた。

また、新名神から離れた地域でも、県外からの観光客が多い観光地では、移動時間の短縮が誘客ＰＲの好材料となる。前述の国土交通省のアンケートでは、開通後に来訪したい観光地として、県北部だけでなく南部の伊勢志摩地域や東紀州地域などの観光地も上位にあがっており、新名神開通効果が県内全域に広がることが期待される。

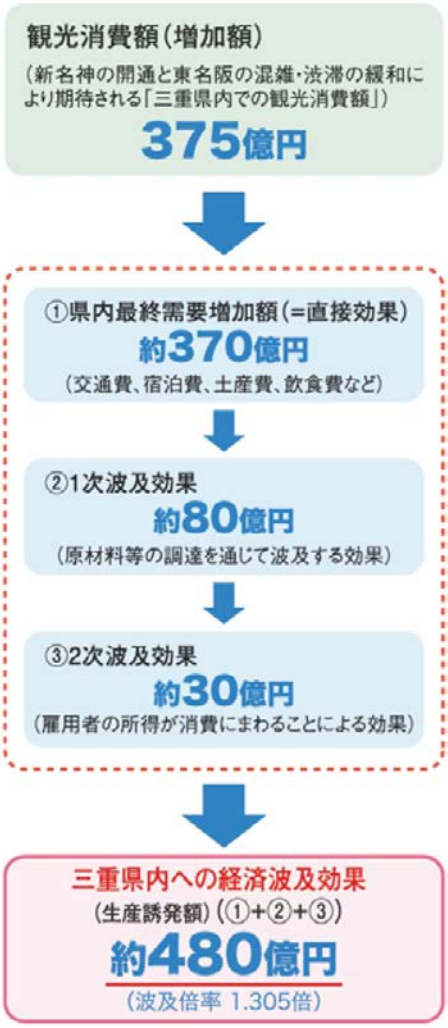
新名神・東環開通効果検討会議（※2）では、新名神の開通と東名阪の混雑・渋滞の緩和によって、三重県への観光客が増加し観光消費額が年間 375 億円増加すると推計している。これを基礎データとして、この金額が発生した場合に三重県内の観光関連産業を含めた全産業にもたらす経済波及効果について、当方で推計を行ったところ、合計で年間約 480 億円となった。観光関連産業は、労働集約型でかつ裾野が広いことから、とりわけ三重県内の幅広い産業や雇用に大きな効果をもたらすと考えられる。

新しい時代の幕開け、三重県の観光におけるポテンシャルは高まりつつある。この好機を活かし、令和の時代も魅力ある選ばれる観光県となることを期待したい。

（※1）国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所

（※2）国、高速道路会社、県、沿線市町で構成された会議。2019 年 1 月 31 日設立。

図表７　新名神開通による観光消費がもたらす三重県内への経済波及効果



※「平成 23 年三重県産業連関表」を用いて推計。波及倍率は対直接効果。

資料：筆者作成

以上

【お問い合わせ先】　株式会社 百五総合研究所
コンサルティング事業部　調査グループ　谷ノ上（たにのうえ）
三重県津市岩田 21 番 27 号　　TEL059-228-9105